

第25号

2010年8月10日発行
(平成22年)

佐渡 市議会だより

■発行:佐渡市議会
■責任者:金光英晴
◆編集:議会報編集特別委員会
●〒952-1393 新潟県佐渡市河原■本町394番地
●☎(0259) 57-8133
●HP:<http://www.city.sado.niigata.jp/>



マグロ解体ショー
(小木さかなまつり)



6月定例会

定例会の概要、常任委員会
活動報告

2

一般質問 ここが聞きたい

4

請願、意見書、その他

12

政務調査費の実績をお知らせ
します

13

主な議決結果について

14

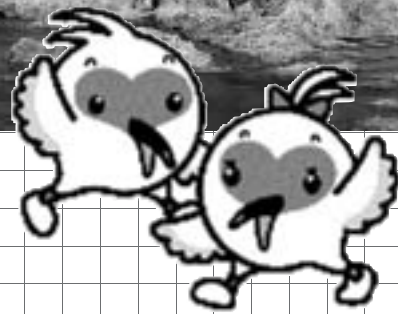
議会のうごき、行政視察来市状況
編集後記

16

を追加し、総額434億2,214万3,000円と 算案を含む17議案等を可決

④ トキめき佐渡・にいがた観光圏整備事業1,237万5,000円

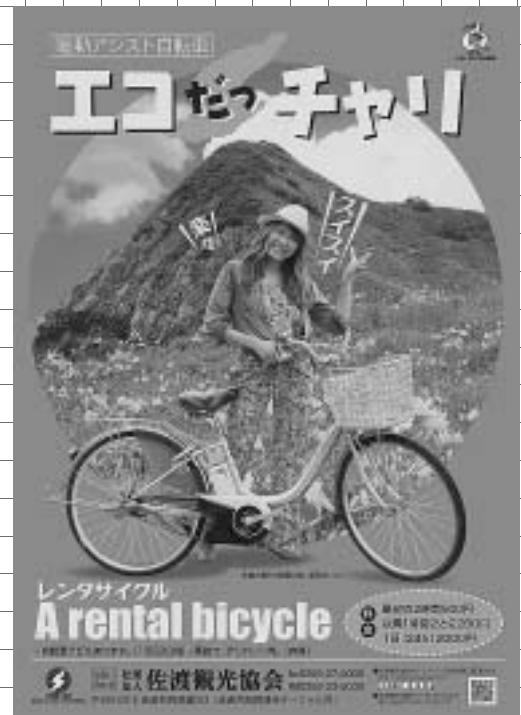
佐渡市、新潟市を巡る新たな
宿泊旅行商品として共通乗船券
や観光施設入場券の作成など
14の事業への支援を認めました。



⑤ 佐渡観光誘客支援事業

1,500万円

佐渡観光協会が観光客の利便を■る
ため貸出用電動自転車100台を導入
する事業への支援を認めました。



市|民|厚|生

- ・20床増築された全室個室対応の特養
羽茂の里を視察しました。

◆所管事務調査

真野クリーンパークにおける漏水事故
や、佐和■休■急患センターの運営形
態の見直し、また公立病院改革プラン
の進捗状況などを調査しました。



羽茂の里



真野クリーンパーク

産|業|建|設

- ・広域的人材養成等
支援事業
コールセンター等
の企業誘致は本年
度中に成果を得る
よう求めました。



コールセンター研修の様子

歳入歳出それぞれ13億9,214万3,000円 する平成22年度佐渡市一般会計補正予算

◆6月定例会での主な審議事項

① 佐渡市立学校設置条例の一部を改正する条例の制定

平成24年4月から松ヶ崎小学校と松ヶ崎中学校を連携校として開設するための条例の改正を認めました。



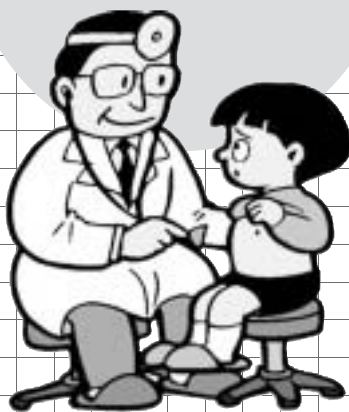
松ヶ崎小学校



松ヶ崎中学校

② 子どもの医療費助成

子どもの医療費助成について、小学校卒業までの全児童を対象とすることを認めました。



③ 財産の無償譲渡

老人休養ホームこがね荘を、NPO法人おけさ福祉会に無償譲渡することを認めました。



老人休養ホーム こがね荘

行政の
今を



常任委員会
活動報告

総務|文|教

- ・東京新潟県人会大交流イベント派遣委託料
主催者が負担すべき経費を佐渡市が負担するケースが見られるため今後、留意するよう求めました。



6月定例会では15人の議員が登壇し、市の考えをいただきました。
一般質問での答弁要旨を各議員からの寄稿で掲載しています。



一般質問



ココが聞きたい!!

- | | |
|---------------------------------|----|
| 祝 優雄 議員…………… | 4 |
| ◆離島のカソリン価格の矛盾 | |
| 金子 克己 議員…………… | 5 |
| ◆市の生涯学習について | |
| 中村 良夫 議員…………… | 5 |
| ◆平和・女性の命と健康
就学援助制度の改善を | |
| ■中 文夫 議員…………… | 6 |
| ◆教育は誰のためか | |
| 加賀 博昭 議員…………… | 6 |
| ◆60億円の船買うつて
15年間船賃を半額にする | |
| 中川 直美 議員…………… | 7 |
| ◆将来ビジョン最優先でなく
特養待機者の解消を現実課題に | |
| 松本 正勝 議員…………… | 7 |
| ◆トキ観察仮設ステージは
ムダ使いではないか | |
| 小 純一 議員…………… | 8 |
| ◆こどもが元気な宝島をめざす
政策について | |
| 村川 四郎 議員…………… | 8 |
| ◆新組織と職員のやる気への疑問 | |
| 大桃 一浩 議員…………… | 9 |
| ◆学校統合できない地区での
学力低下を防げ | |
| 廣瀬 擁 議員…………… | 9 |
| ◆縦割り行政の弊害について | |
| 佐藤 孝 議員…………… | 10 |
| ◆小木・直江津航路
今後の在り方は | |
| 金 淳一 議員…………… | 10 |
| ◆地域主権と
佐渡市の経営はどうする | |
| 本間 千佳子 議員…………… | 11 |
| ◆医療福祉行政と
教育行政の課題点をみる | |
| 近藤 和義 議員…………… | 11 |
| ◆今後の佐渡航路と
佐渡観光のあり方 | |

一般質問

離島のカソリン価格の矛盾



祝 優雄 議員

質問 佐渡市の事業順位として佐渡汽船の建造を支援するより「石油製品の流通合理化支援」を先に行うべきと考えている。

石油製品の価格高騰で離島である佐渡の経済は壊滅的な危機に直面している。6月1日現在、軽油の新潟県の平均価格と佐渡の価格差は1リットル当たり3円の差しかない。なぜ、ガソリン・軽油・灯油も一隻のタンカーに混載で運ばれて来るのに、ガソリンと灯油だけが1リットル当たり15円以上の格差が生じるのか。佐渡病院・佐渡汽船など民間企業に補助金をつぎ込む前に、市民が求め、地域経済に直結する石油製品の格差解消に具体的な政策がないのはなぜか。

市長 新潟県石油商業組合に確認したが、佐渡支部では軽油の取引量が多く、新潟はガソリンと違って価格競争があまりないためと分析している。

質問 今の説明ではまったく理解できない。佐渡へは、山形県や北海道などからタンカーで佐渡にある2か所の油槽所に運ばれている。全量（本土）の海上輸送の流通形態と全く変わらない。流通形態が変わらないのであればガソリンの価格差も3円まで下げられることにならないか。

市長 価格差の油種別に比較した分析については持っていないが、競争原理が働くところと働かないところでおのずと変わってくるのだと思う。

小さな給油所が多く販売効率も悪く、一定の経費を確保しなければならぬという分析もある。

質問 人ごとのような答弁で理解できるものではない。一般の消費物資の価格差や流通コストと比べ石油製品の流通コストは高すぎる。島民が納得できるものでなければならぬ。関係部署に価格差解消と対策をすぐ指示して頂きたい。

市長 早速現状を分析して解決の方策を見つけ出すように係に指示をする。

